

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：フランス学に触れる ILAS Seminar :Getting in touch with French Studies			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太 人文科学研究所 准教授 立木 康介 人文科学研究所 准教授 森本 淳生		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2017・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	金5	教室	人文科学研究所本館1階 セミナ ー室1 (本部構内)		使用言語	日本語	
キーワード	フランス / 思想 / 芸術 / 歴史						
【授業の概要・目的】							
<p>近現代のフランス文化は、絶対主義から革命を経て共和国へと変遷するフランスの歴史を背景に、独特の洗練と先鋭性を加え、ヨーロッパのみならず世界各地で大きな影響力をもってきた。まただからこそ、20世紀後半のフランスでは、多くの思想家や芸術家が、同時代の社会や個人のありかたを根本的に問い直すような仕事を生み出すことにもなった。本セミナーでは、16世紀から20世紀まで、フランスで提起されてきたさまざまな問題を取りあげ、それを代表的な思想家・芸術家の作品や具体的な歴史的文書（いずれも抜粋）に即して議論しながら、近現代のフランス文化にじかに触れ、その特徴と歴史を理解することを第一の目的とする。また、フランスのみならず、近現代のヨーロッパの歴史や文化を理解したり、現代の思想・芸術・社会などの諸問題を考えるうえで必要となる根本概念の歴史的背景を知り、理論的な理解を深めることを目指す。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・近現代フランスで生まれた作品の一端に触れることで、広くフランスやヨーロッパの文化や歴史にかんする教養を身につける。 ・近現代フランスやヨーロッパに由来する人文社会系諸学の基礎概念の歴史的背景を理解し、理論的な素養を身につける。 ・講師によるテキストやイメージの読解や解釈の実演を通じて、思想研究・文学研究・歴史研究などの手法に触れる。 							
【授業計画と内容】							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業ガイダンス 2) 寛容論の諸問題：近世フランスの議論から 3) 紳士の理想：近世フランスのモラリストたち 4) 穏和の理想：モンテスキューと『法の精神』 5) 共同体と個人：ルソー 6) 啓蒙から革命へ：モンテスキューからロベスピエールまで 7) 近代科学の創生：近世・近代のフランスの科学者たち 8) 言語と文学：ボードレーとマラルメ 9) 文学と記憶：プルースト『失われた時を求めて』 10) 文学と記憶：プルースト『失われた時を求めて』 11) 文学・エロス・死：デュラス『ラマン』を読む 12) 「主体」「言語」「セクシュアリティ」：ラカンと精神分析 13) 「主体」「言語」「セクシュアリティ」：ラカンと精神分析 14) 授業のまとめ 							
----- ILASセミナー：フランス学に触れる(2)へ続く -----							

ILASセミナー : フランス学に触れる(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

評価は平常点（出席状況）と期末レポートによって行う。期末レポートに関しては、セミナーでとりあげる主題に即して課題と参考文献を示すので、そのなかから一つを選択して論じるものとする。その他詳しくは授業中に説明する。

[教科書]

セミナー各回でとりあげるテキストやイメージは、プリントで配布する。

[授業外学習（予習・復習）等]

とりあげるテキストやイメージはできるかぎり事前に配布するので、履修者には配布されたプリントに目を通しておくことが望まれる。

[その他（オフィスアワー等）]